

ENGINE

エンジンNo.180
Sep.2015
特別定価
1030yen

9

巻頭特集: 創立105周年を迎えて、新型ジュリアを発表したイタリアの名門ブランド

アルファ・ロメオにメロメロ!

海外試乗:BMW X5 xドライブ40e

国内試乗:メルセデスAMG C63S / 新型シボレー・コルベットZ06 /

ベントレー・コンチネンタルGT3-R / 新型VWパサート / メルセデス・ベンツCLAシューティングブレーク /

BMW2シリーズ・グラン・ツアラー / スバルBRZ tS

ファッション:ひと足先に選ぶ、秋冬の注目アイテム 時計:色で楽しむ新作時計選び

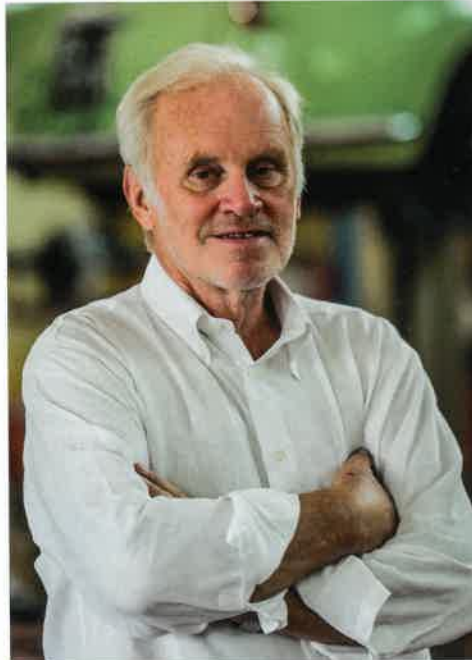
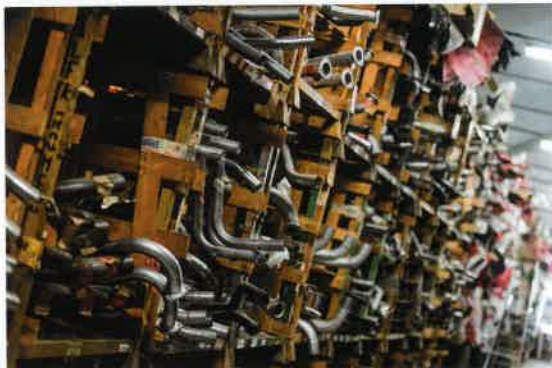




AFRAはミラノの西、セッティモ・ミラネーゼにある。かつてはミラノにあったが、1998年に、店舗もここへ引っ越してきたという。



マッテオさんは管理部門を統括している。スポーツカーのお姉さんに遠慮してか、口数極めて控えめ。



AFRAを率いる2代目のジャンカルロ・ジョルジュティさん。もちろん、根っからのアルフィスタである。

「ナンバーは付いているけれど、今日は時間がなくて、公道へは出られなくてすまないね」と、ジャンカルロさん。いえいえ、外で見る姿はまた格別に美しかったです。

マイクロフィルムが生きていた

AFRAについてひととおりの説明を聞いてからまたガレージへ戻ると、専任メカニックをしているフランチェスコ・スケナルディさんが作業中だった。訊けば、当年80歳！

メカニックとしての人生は、トラクターに始まりレース用モーターサイクルを経てアルファ・ロメオへと変わり、33年間、アルファの面倒を見た後、1982年からここで働いているという。立派な整備ガレージがあるのも道理で、かつてここは整備工場で、彼を含めた4人がアルファの整備やレストア作業に従事していたという。工場としては閉めたので今はひとりになってしまったが、アルファへの情熱は枯れることがなく、毎日、朝7時から出てきてコックピットとレストア作業に勤しんでいるのだそうだ。「身体中にアルファの血が流れているひとよ」と、アレッサン

ドラさんが微笑む。訊けば、戦前のモデルだけでも何十台も直したという。ここにもまた、アルフィスタだ。

ガレージのなかにアルファ・スパイダーの子供用ミニカーがあるのを見つけて尋ねると、アレッサンドラさんと弟が小さな頃、乗って遊んでいたものだそう。今も機関完調で、アレッサンドラさんの長男、アスカ（二才君（6歳））が走らせているとのこと。女の子を乗せてデートもするらしい。ガレージには本物の黄色



AFRAの顧客カウンターを預かる面々。左からマルコ・ロシニョーリさん、ロベルト・ヴェッラさん、ガエターノ・ガルバニャーティさん、そしてロベルト・コータさん。AFRAへのコンタクト方法は、ウェブ・サイト、www.afra.itに詳しく出ています。



イタリア以外の国とのやりとりをまるごと担当しているアレックス・サンドラさん。英語堪能ということです。

おいとまする前に、AFRAの店舗カウンターへ立ち寄る。大きな部品倉庫に隣接して加えられた新しい建屋部分にある受け付けは、直接来店する小売業者や個人客の対応もするほか、主にイタリア国内からの電話問い合わせに4人体制で対応している。それぞれに担当が決まっている。うち3人はアルファ・ロメオの生産年代ごとに対応するスペシャリスト。もう1人は近年、顧客からの要請に応じるかたちで始めたアルファ以外のメーカーの古い純正部品全般の担当という。勤続40年ほどにもなる超ベテランが3人もいて、パソコン普及のはるか依然にアルファ・ロメオで使われていたマイクロフィルム式のパーツ識別図表を当時の機器と共に使いながら、倉庫にストックされた何万とある在庫から速やかに目当ての部品を見つけ出す。

この日の朝、度を越して早着した僕は、長い間、通りで待つことになったのだけれど、朝からひっきりなしに荷物の受け取りに来たらしきバルブが入りししていた。ああ、古いアルファはこうして生きながらえていくんだなあ、思ったものである。



上、左、下:ジョルジュッティ家のアルファ・ロメオのコレクション。どれにもこれにも家族の思い出が。戦前のアルファの威光を宿す2台の大型モデルが異彩を放つ。そして、ここにもジュリアが、黄色の後輪駆動時代最後のアルファ・スパイダーは、アレックスドラさんの長男、アスカーニオ君が3歳の時に、家族が彼にプレゼントしたものだという。アルフィスタの英才教育、恐るべしだ。リフトに載る淡い緑色のジュリエッタ・スプリントはいま、専属メカニックとして働くフランチェスコ・スケナルディさんの手で着々とレストア作業が完成に近づきつつある。



レージにあったアルファ・スパイダー(子ども用)。ペダル・カではなく、12Vバッテリーを使って電動モーターで駆動する特なもの。親子2代で使い続けているという。



日のアレックスドラ、マッテオ姉弟。2人とも、上の写真のアルファ・スパイダーによって、アルフィスタの道へ。



情熱に突き動かされながら、ひとりコツコツと毎日レストア作業に勤しむのが、今年80歳になるフランチェスコさんだ。



以前、整備工場兼レストア工房だった場所はジョルジュッティ家のアルファ・コレクションの整備スペースとして残る。

同じものが供給できることも少なくないらしい。イタリアでは1990年に法律が変わって、車両生産終了後の部品供給義務期間が10年になったせいで、それを過ぎると一気に部品の入手がおぼつかなくなるのが、イタリア車乗りの悩みの種だが、アルファ・ロメオも例外ではなく、すでにアルファ156ですらその悩みに直面することが少なくない。それが理由で手放した人も少なくないだろう。そういう時に、AFRAに駆け込むわけだ。世界中と取り引きがあるというのだから、いずこも同じということが。

「会社のことは娘たちに任せてあるから」と、専らAFRAのことを伝えるのはアレックスドラさんだが、案内されたガレージで古いモデルのことを尋ねると、目を細めて話してくれた。終戦直後ぐらいに生産された立派なクーペとカプリオレがあったので尋ねると、1947年の6C 2500ピニンファリーナ・カプリオレ・パツン・ルンゴ(ロング・ホイールベース)は、かつてのローマ教皇、パウロ6世が、教皇に就任(1963年)する前、ミラノの大司教だった時代、パレードのときに乗っていたクルマそのものだと言われてきた。その当時のオーナーはミラノのお医者さんで、パレードの時にはいつも貸し出していたのだそうだ。教皇になるひとを乗せたクルマかと思うと、おいそれと触ることもできないような気がした。

せっかくなの機会だから、陽の光の下で撮影させていただけませんか?とお願いすると、快諾してくれて、右ページの写真が撮れた次第。



1947年アルファ・ロメオ 6C 2500ピニンファリーナ・カプリオレ・バツソ・ルンゴ。ホルテッロを出てから70年近い時の経過に耐えてきたとは俄かには信じがたい状態にある。ローマ教皇パウロ6世は、ミラノ大司教だった時代に、このクルマそのものを使ってパレードしたのだという。



ハティスター・ピニンファリーナの手になるスタイリングは時代の先端をゆく流麗なものだったが、今なお見る者の目を奪う気品が漂っている。美しい。

「祖父のアドリアーノ・ジョルジュッティはアルファ・ロメオでボルテッロ地区の部品販売の責任者だったの。当時はそこから直接、顧客に部品を販売していたそうよ。祖父は、部品販売専門の会社を作りたいと交渉して弟のアンジェロと1946年にAFRAを作った。それが始まりね。祖父は2001年に他界して、今は父のジャンカルロが代表で私が海外部門担当、弟のマッテオが管理部門を担当して切り盛りしてるわ。ジョルジュッティ家はみなアルフィスタよ、と言いたいところだけれど、夫のカルロはボルシエー筋なの」と言っていて笑うのはアレックスサンドラさんだ。AFRAはアクセサリ、消耗部品、修理用交換部品、自動車という意味のイタリア語を連ねた名の頭文字を繋いだもので、今はAFRAで通っている。古いアルファ・ロメオを維持しているひとはすでにご存知のことと思うが、アルファの部品で困ったときの駆け込み寺のような存在だ。アルファ関連だけでも優に12万点もの新旧純正部品をストックしている。取り引き先としてはイタリア国内が主力だが、今では世界中と取り引きがあり、代理店がない国では、個人とも直接やりとりをしている。日本もそうで、今のところ、個人との直接売買という。

AFRAは旧い方は戦前のモデルの部品も持っており、在庫にないものはオリジナル図面に当たって、リプロダクション品として新たに作ることもある。1970年ぐらゐまでは、消耗品などについては他のメーカーとの共用部品も多かったから、